

コンピテンシー準拠型研修への変換過程支援ガイドラインの考案

—エチオピア国水技術機構における JICA プロジェクトを事例に—

Guideline to Assist Conversion Process for Competency-based Training:
JICA Project at Ethiopia Water Technology Institute as an Example

鈴木克明*、伊藤拓次郎**、北詰秋乃***

Katsuaki SUZUKI*、Takujiro ITO**、Akino KITAZUME***

熊本大学*、アイ・シー・ネット(株)、(株)アースアンドヒューマンコーポレーション
Kumamoto University**、IC Net, Ltd.、Earth and Human Corporation

要約：本発表では、エチオピア国水技術機構におけるJICAプロジェクトを事例として、従来型研修からコンピテンシー準拠型研修への変換プロセスを支援する方策について報告する。研修講師による講義中心型座学と見学中心のフィールドワークで構成されていた従来型研修を国が求める職能基準準拠型のより実践的な研修の枠組み（TTLM）に変換することが求められている。その過程を段階的に支援し、プロジェクトの目標達成に資するためのガイドラインを考案した。今後、プロジェクトでのガイドラインに沿った変換を支援していくことで、類似事例への応用に資する知見を模索していく。

キーワード：コンピテンシー準拠型研修、TTLM、国際協力、エチオピア国

1. はじめに

研修講師による講義中心型座学と見学中心のフィールドワークで構成されている従来型の研修は、研修効果が十分に上がらず、研修によって人材育成をしようとするニーズに応えられていない。この問題は、国の内外を問わず、研修の領域によらず、遍在してきた。他方で、国が求める職能基準準拠型のより実践的な研修の枠組みが提案され、いわゆるコンピテンシー準拠型の研修への変換が求められている。本発表では、エチオピア国水技術機構における JICA プロジェクトを事例として、従来型研修からコンピテンシー準拠型研修への変換過程を支援するガイドラインを考案したので報告する。

2. エチオピア国水技術機構の研修

エチオピア国水技術機構（以下、EWTI）は国が設置した現職技術者向け研修機関であり、職業訓練専門学校（TVET）向けに開発された国家職能基準（EOS）に基づいたコンピテンシー準拠型訓練方式（TTLM）を採用することを決めた。TTLM 方式は、教師ガイド、モジュールごとの学習ガイド、並びにアセスメントパッケージから構成されており、実務に直結した効果的な研修を可能にしている。図1に基礎知識群の学習と職務手順の確認・演習を実現するために詳細に定められた学習ガイドの概要を示

す。一方で、これまでの EWTI における訓練は従来型であり、大幅な変換が求められることになった。

3. 研修方式変換過程の支援

そこで、筆者らは、その変換過程を支援するために表1に示す変換ガイドラインと表2に示す方針を提案した。現状の従来型研修を段階的に変換していくための実現可能な指針を模索した結果である。

今後、プロジェクトでのガイドラインに沿った変換を支援していくことで、類似事例への応用に資する知見を模索していく予定である。

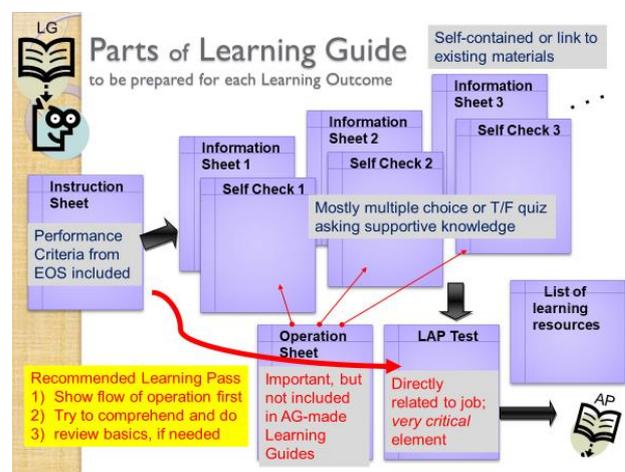


図1 TTLM方式による学習ガイドの構成物

表1 変換ガイドライン (変換前後の比較表)

現在の状態 (TTLM 導入前)	変換後の状態 (TTLM 導入後) 注: <u>ゴシック体</u> は追加が必要な要素、 <u>斜字</u> の TTLM 要素は EOS での指定物 (必須).
1) プレゼンテーション用ファイル (説明中心、受講者は聞くだけ = 事象 4*)	1) 学習支援のためのプレゼンテーション用ファイル (ワークシート使用指示付、事象 1~6*) <u>学習ガイド</u> に相当 コースオリエンテーションにおいては: 1-0) <u>モジュール導入用プレゼンテーション用ファイル</u> <u>ハンドアウト: コースシラバス</u> (EOS <u>ユニットコード</u> と <u>記述子</u> を転記) 全部の学習成果ごとに次のすべての要素*を含めること 1-1) <u>事象 1: 注意を喚起する</u> 1-2) <u>事象 2: 目標を知らせる</u> (<u>ハンドアウト: 指示シート</u> を併用) 1-3) <u>事象 3: 基礎知識を思い出させる</u> (<u>自己チェックシート</u> を反映) 1-4) 事象 4: 新しい情報を提示する (<u>ハンドアウト: 操作シート</u> を併用) 1-5) 事象 5: 学習の指針を提供する (<u>操作シート</u> の内容に対する <u>講師用解説</u> を用意して適宜用いる) 1-6) <u>事象 6: 練習の機会を与える</u> (<u>ハンドアウト: LAP テストシート</u> を使う指示) 注: 事象 7: フィードバックは講師が直接与える
2) 事前・事後テスト (主に基礎知識を問うもの: 知的技能ではなく言語情報*)	2) 拡張版事前・事後テスト (TTLM <u>アセスメントパッケージ</u> に相当) 2-1) EOS で指定されている <u>基礎的知識・スキル</u> のすべてをカバーする事前・事後テスト (現在のものから <u>拡張が必要</u>) 2-2) EOS <u>証拠収集ガイドライン</u> に合致した <u>パフォーマンス評価チェックリスト</u> (運動技能*の事後テストに相当)
3) ハンドアウト (使っている場合は古いものが多い)	3) ハンドアウト (ワークシート): <u>学習ガイド</u> に相当 3-1) <u>操作シート</u> (職務手順の説明書) 3-2) <u>学習者応用パフォーマンス (LAP) テスト</u> (職務の遂行練習と確認)
4) フィールド観察 (主として講師によるデモンストレーションの見学)	4) フィールド学習と評価 4-1) <u>フィールド観察シート</u> (講師デモンストレーション用) 4-2) 受講者によるフィールド演習とフィードバック (事象 6・7) 4-3) <u>フィールド評価シート</u> (口頭試問とチェックリストを活用)
5) アンケート	5) アンケート (レベル 1 評価)と <u>アクションプラン</u> (レベル 3 評価)

注: *はガニエの 9 教授事象と 5 つの学習成果 (ID ワークショップ #1 で学習済み事項)

表2 職業訓練専門学校と現職技術者研修機関との比較と方針提案

職業訓練専門学校 (TVET)	EWTI (現職技術者研修機関)
学生はフルタイムで多くの学習時間が避ける一方で、職務経験はなし/限定的	技術者向け研修は効率的にする必要がある (学習時間は十分にない) が受講者は職務経験が多い/多様
授業は基礎から開始される (誰も基礎知識を有していないことを前提)	教える前に基礎をチェックすることを推奨 (職務経験から知っていることがある可能性が高い) 1) 前提テスト (事象 3) を事前/前日に配布する 2) 研修開始前に自己チェックする機会を与える 3) 毎日の研修を前提テストから開始し、必要がある項目に限定してフィードバック/解説をする
<u>学習ガイド</u> は一斉授業だけでなく自己学習にも用いられるために用意されている ✓ <u>学習目標</u> ごとに用意されている <u>指示シート</u> には、自己学習の進め方についての手順がある (授業欠席者にも対応) ✓ すべての教材は印刷され、学生個々に配布されている ✓ TTLM 導入の目的は、学生を自己主導学習者に育て、自立させることにあり、教師がなるべく直接関与せずに自己ペースで学習できるように配慮されている	<u>学習ガイド</u> は (当面の間) 講師主導の一斉研修に用いるためだけに用意する ✓ <u>指示シート</u> には、自己学習の進め方についての手順は含めない (全受講者が全研修参加が前提) ✓ <u>学習ガイド</u> はプレゼンテーション用ファイルとして準備し、講師が全員に提示する。ハンドアウトとして準備するもののみを印刷し、受講者に配布する (少なくとも当面の措置として変換を容易にするための提案: 試験運用を経て見直す) ✓ 講師主導の集団研修形式を維持する。自己学習は基礎知識・スキルのみを導入し、研修と評価をより実践的なものに変換することに注力する